

令和7年 7月25日

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学校名	管理機関名	設置者の別
足利市立北郷小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

(3) 自校における評価

職員アンケートの結果から

	大いに思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	あまり思わない
英語によるコミュニケーションの基本的な能力につながっている。	27.3 %	63.6 %	9.1 %	
英語に慣れ親しむことにつながっている。	45.5 %	45.5 %	9.1 %	
外国語や外国の文化に対する興味関心が高まっている	27.3 %	72.7 %		

#### (4) 学校関係者による評価

##### <児童>

英会話の学習は楽しい。	楽しい 68.5%	少し楽しい 23.4%	あまり楽しくない 6.4%	楽しくない 1.7%
ALT や EAA の先生、友達の英語を聞いて、だいたい何を言っているか分かる。	わかる 23.4%	だいたいわかる 45.5%	あまりわからない 23.8%	わからない 7.2%
外国語や外国の文化に対する興味関心が高まっている。	たくさんある 18.5%	すこしある 25.3%		とくにない 56.2%

- ・「英会話学習や外国語活動、外国語の授業は楽しい。」の質問に、肯定的な回答が 9 割以上であった。英会話学習を楽しみにしている児童が多い。
- ・「先生や友達の英語を聞いて、だいたいの内容が分かる。」の質問に、「分かる」「だいたい分かる」に回答した児童は約 7 割であった。
- ・日本と外国の文化の相違点に興味をもち、また、もっと英語を学びたい児童がいることが窺えた。

##### <保護者>

	大いに思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	あまり思わない
英語によるコミュニケーションの基本的な能力につながっている。	31.8%	44.7%	13.6%	9.8%
英語に慣れ親しむことにつながっている。	35.6%	51.5%	7.6%	5.3%
外国語や外国の文化に対する興味関心が高まっている	24.2%	50.0%	17.4%	8.3%

- ・1 年生から英語に触れる機会があるため「英語に慣れ親しんでいる」と感じている保護者は約 9 割であった。
- ・保護者の記述アンケートでは、「第 1 学年から実施されており、日常的に英語に慣れ親しむことができ、アウトプットもしやすくなると思う」「英語の時間、ALT、EAA の先生と触れる機会を増やしてほしい」「英語でのコミュニケーションが積極的にできるようになってほしい」「日本語と英語の発音の違い、ローマ字と英語の違いなどたくさん学んでほしい」「授業参観等で見てみたい」などの意見があり、英会話学習への期待が大きい。

### 3. 実施の効果及び課題

- ・英語チャレンジ DAY は意欲的に取り組めた。また、英語チャレンジ DAY をきっかけに、授業だけでなく日常でも英語を使う姿が見られるなど、興味・関心の高まりがあった。
- ・ALT や EAA に親しみ、活動を楽しんでいる様子が見られる。また、廊下等であったときに児童から挨拶をしたり話しかけたりする様子も見られた。

・児童へのアンケート「外国のことで知りたいことはありますか」の質問に対して、「いろいろな国のあいさつが知りたい」「外国の一日の生活が知りたい」「日本では『いただきます』をするが、外国でのそのようなマナーや規則を知りたい」「外国の授業が知りたい」など、日本と外国の文化の相違点に興味をもつ児童が多いことが分かった。

#### 4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・早期の英語教育が、早期の英語嫌いを生み出すことにつながらないように、五感を使って楽しく慣れ親しむことができるようにする。児童とのやり取りと、言葉は使いながら使えるようになるという意識を大切にしていく。
- ・会話場面を想定した掲示物や、英語チャレンジ DAY で用いた活動の掲示物を貼る、朝の会で英語の歌に触れる等、校内の環境を整える。
- ・学年が上がるにつれ、英語に対する苦手意識を持つ児童がふえてきている。その解決策の1つとして、高学年での文字に触れる活動の前に、低中学年で音をたくさん聞いてたくさん使う経験をさせたい。音声で十分に慣れ親しんだ英語と文字を結びつけさせたい。
- ・高学年では、自己紹介の場や地域のおすすすめをする場、修学旅行の感想を発表する場など発表の準備の際、タブレットを有効に活用する。